

第12回生駒市介護保険運営協議会会議録

1 日 時 平成27年11月13日（金） 午後2時～午後4時

2 場 所 生駒市コミュニティセンター 402・403会議室

3 出 席 者

委 員 澤井 勝 高取 克彦 萩原 洋司 小川 千恵里 小坂 和子 櫻井 明子 林 昌弘
中庄谷 幸榮 永田 弘 村上一美 日野 紀代子 藤尾 庸子

事 務 局 影林福祉部長

高齢施策課：安達 博臣 田中 明美 堤 良太 古田 領哉

介護保険課：細川 隆庸 島岡 伸康 福山 清美 殿水 成樹 小倉啓子

（欠席委員 辻村 泰範 井上 太）

4 傍 聴 者 なし

開 会

会長（澤井）挨拶

案件1 会議の公開・非公開について
公開で行うこととする。

案件2 超高齢社会に対応可能な交通費助成制度及び高齢者福祉施策のあり方について

① 介護保険運営協議会への諮問（資料1）

② 高齢者交通費助成の現状と課題

資料2に基づき説明

委 員 : コミュニティバスに切り替えろという話が以前の見直しの時にはあったが、今回はない。コミュニティバスが市内の各施設を通ってもらえたら良い。当初は1コインで乗れたのに、150円になったため支払いにくくなった。高齢者がいきいきと暮らせるようにというのが当初の目的であったはずが、市のイベントがある土曜、日曜日は運行していない。市が開催するイベント参加のために施設を回ってほしい。

事 務 局 : 公共交通との兼ね合いもあり、ここには記載されていない。

委 員 : カード発行のために、シルバー人材センターの人件費等かなりのお金がかかっているはず。高齢者にとって市内で有効に使える方法を構築するべきだ。だからこそコミュニティバスが必要だ。

事 務 局 : コミュニティバスは生駒市地域公共交通活性化協議会で別に検討している。

優先順位をつけて整備していくよう逐次準備をすすめている。

150円という料金設定は市が半分負担、残りは国・県からの補助と運賃で賄っている。これで採算がとれるルートから運行している。

当初から、日常の生活を確保していく目的で、月曜日から金曜日運行している。

施設を巡回してほしいという意見も担当課に伝えるが、他の機関との兼ね合いもある。

委員：新しく開けた住宅地にはバスが運行しているが、バス路線から外れている従来からの住宅地にも住んでいる人がたくさんいる。

高齢者サロンを開いても歩いて来られない方がいる。アンケート項目にはサロンも入っているが、送迎に関しては入っていない。

こんなアンケートで本当の意見が出てくるのかと疑問に思う。

事務局：アンケートには送迎付きの教室も選択肢に入れている。

委員：年齢層が20代、30代も含まれているが、この年齢層に聞いても判断できるか疑問に思う。

事務局：正しい判断をするためにこそ、幅広い年齢層から聞かないといけないと考えている。

委員：Ⅲの移動支援について「必要かつ効果的な方に絞り込む」とあるが、どのようにされるのか。

事務局：制度の有効性で掲載している分類を基本に、これから考えていくこととする。

委員：路線バスのない所でいきいきカードが使われているかの集計はしたのか。必要ではないか否かの現時点での把握はできているのか。

事務局：全体の交付対象者と使用額のみが報告される。タクシーの請求については、年度が変わることもありわからない。詳細の把握は物理的に不可能である。

委員：確認させてもらうが、電車・バスはその日（渡した日）の決裁。タクシーは使用した分の実績ということですね。

どんな統計をみても確実に1.6、1.7倍に伸びるとするのは、当たり前のことである。介護給付費が1.7倍の伸びというのは、生駒市の介護労働人口も1.7倍になり、今のサービスを維持するというならよい。労働人口が減っていく中ではどうかと思う。介護職員が1.7倍の仕事をせよということか。これを前提に話をするのは無理がある。

5ページに記載されている「全ての高齢者に一律」に助成する制度という部分について、今はばらまきの時代ではない。潤沢に税金も増える状況ではない。どこかで縛りをつけるべきだ。綿密にすればするほど漏れる人が出てくる。

行政がすべきことは、高齢で困っている人の最低生活を守ること。そういうスタンスで議論をしてほしい。

4ページ記載の虚弱高齢者には年1万円の支給が健康の増進につながらないという言い回しはどうかと思う。

委員：使い道にも問題があると思う。高齢者がいただいたのを若い人が使っていると聞いている。これを廃止して、自分の足で出かけられるところを増やしてほしい。

事務局：言い回しは現実的ではないかもしれないが、自分の足で歩くというきっかけの意味あいで入れている。他の人がカードを使うことは行政が一人ひとり確認できない。表現が妥当かわからないが、性善説にたって実施している。

市民の声も聞きたいのでアンケートを行いたいと思う。

会長：私は京都市民で、敬老の交通のカードをもらっている。バスが縦横に走っているので十分活用している。名前が入っていて使い勝手もよい。外に出る支えになっている。

生駒市内で移動手段になっているのか。

委員：コミュニティバスも満席になっていない場合がある。

1億円2億円も使われていて、廃止しようと以前から議論しているが、また同じことの繰り返しになる。行政の手腕を発揮してもらえたらいい。

委員：現在の実態をしっかりと把握していかないと議論になっていかない。今と同じことになり、形あるいいものが生まれてこないと思う。

事務局：以前、利用者対象のアンケートを行っているので確認をする。

会長：タクシーはどの年齢層が使っているかなど、総額に見合う使い方がされているか確認してほしい。その上で、これからはどこの層を重点的に支えるか、例えば虚弱高齢者であるとか、施策体系のなかでしっかり確立しないといけない。

委員：本人以外が使っているというのが明るみになれば、若い人は黙っていない。生保の場合と同じになる。実態をつかまないといけない。

委員：昔と今の高齢者は大違いである。車を運転できる人には渡す必要があるのかと思う。

委員：一般企業ならもっと実態を調べている。それが当たり前であると思う。

事務局：アンケートで利用の状況を聞くので評価が出てくると思う。世代も20代からなので意見を出してもらえる。以前のデータも見てもらって審議してもらいたい。

委員：何をもらったのか書いてもらってはどうか。現金化しているという話も聞いている。困っている人に手を差し伸べて欲しいし、市のイベントを見に行く等外出するという目的で使ってもらえるのではないかと考える。どこに基準を合わせていくかが大事だ。

委員：介護保険の認定を受けている人はもらう必要があるのかなと思う。高齢者の中で運転する人もいるが、不安を感じるという人もいる。そういう人に出すものではないのかなと思う。

多数委員：元気な人には支給しなくてもいいのではないかな。

事務局：現在は、社会参加と生きがいづくりという目的で支給している。これからの超高齢社会に対応する施策に変えていきたい。

会長：まずアンケートをしてもらわないとわからないことだ。

事務局：もらった種別は書いてもらうように検討する。

委員：70代というのが少ないから実態がわからない。70代以上の人に実態調査をして、何に使われてどういうメリットがあるのか根拠は持っておかないと。無作為抽出だが、70代を多くするなど工夫があってもいいのではないかな。何を使ってどこへ行ったかを入れたら良い。

事務局：目的地と券種は入れます。

- 委員：若い人にアンケートをしてわかるのか。設問4以降は高齢者でないとわからないものだ。また、廃止しない場合は、写真を貼り付けるなどしてはどうか。
- 委員：若い人はコミュニティバスが通っていることを知らない人も多いと思うので、聞いてほしい。地域に偏りがあると真実の結果がでてこない。
- 委員：20代に聞いてもわからないからアンケートは不要と言われたがそうではない。昨今は人材不足、就職難で若い子はよく勉強している。意見をきいてほしい。
- 会長：1つのデータとしてアンケートをしてもらいたい。地域的な部分は時間がないので無理かもしれないが、そういう問題があると認識して、次回1月はデータが出てくるので、その結果から読み取れる範囲で議論していけば良い。

案件3 地域密着型サービス事業所の指定更新について

- ① 介護保険運営協議会への諮問（資料3）
- ② 指定更新の審議
資料4に基づき説明

- 委員：現地確認に実際行き、現場がよくわかりました。他の委員皆さんも目からウロコが落ちたようでした。行政とは違う市民目線で見られたことが良かったと思う。事業者の心が感じられた。高齢者の居場所づくりだけでもありがたいのに、一人ひとりにきめ細やかに配慮されている。車椅子のまま食事はさせないと決められ、椅子に座らせておられる。足をぴったり床につけるため、その椅子の足の長さは個々人に合わせている。審議に参加するだけではなく、現場を見せていただき実態がよく知ることができる。実際に見ることで比べることが出来る。今後も内覧会・実地検分を続けてほしい。
- 会長：他に意見なければ、更新了承する。

案件4 その他

今後の運営協議会は、1月8日(金)、21日(木)、28日(木)のそれぞれ2時から予定している。

- 会長：終了します。